



2012・1・10

第154号

101-0065 東京都千代田区  
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

## 教訓に学びあい、さらに広い運動の輪を

### 全国交流集会の報告集刊行

「初めて参加しました。私たちの小さな会も、全国の組織の一端を担っていることが認識できました。200名を目標にしていますが、現在150名にとどまっていることを打破することが課題です。体験談の中に突破口があろう」（東京・世田谷、代田九条の会/I・S）、「いろいろお話を聞いて、アイデアをいただきました。元気に、明るく、楽しく活動することが大事ですね。私たちは職場の忙しい中で、ちょっとでも憲法のこと、九条のこと、平和のことを考えたり、おしゃべりしたりできればという思いでささやかな活動をしています。今日は参加できて本当によかったです」（労働女性九条の会/M・H）——昨年11月に開かれた第4回九条の会全国交流集会の参加者の感想の一部です。寄せられた感想文のほとんどが、このように交流集会が稔りあるものだったことを指摘しているのが特徴。

事務局ではこの感動を集会に参加できなかった人にも広げようと、交流集会の報告集を刊行することとしました。報告集は、

1月16日頃完成の予定です。

#### ◇内容

\*呼びかけ人あいさつ／憲法文化と「フクシマ」…大江健三郎／新しい取り組みに向けて…奥平康弘／世直しのとき…澤地久枝

\*「各地・各界からの報告」「特別分散会報告」（報告した会の名前は「ニュース」153号参照）

\*各分散会・分科会のまとめの報告

\*感想文から

\*まとめと訴え…小森陽一

◇B5版64頁 頒価 500円（〒別）

### 12・8 中心に戦争体験語る集い

【岩手・一関】一関九条の会は12月10日、「戦争を語る会 冬をつどい」を開き50人が参加しました。つどいでは、731部隊に配属された元少年兵の千葉智さん（80歳）が初めて証言。千葉さんは、中国のハルビンで、責任者の石井四郎陸軍軍医中將のもとで、ペスト菌を水源地にまき、凍死や生体内臓実験などの残虐行為をおこない、ソ

連軍が侵入して状況が一変した45年8月には、「身分証は焼却せよ。家族にも話すな、公職には就くな」と命じられ、青酸カリを与えられた体験をなまなましく語りました。

会の代表・千田功平さんの「勇気ある加害証言に感謝します。戦争の体験を忘れずに、平和憲法を絶対に守ろう」の呼びかけに、参加者は熱い拍手で応えました。

**【岐阜】** 岐阜市の島中学校区九条の会は12月3日、アジア太平洋戦争中の激戦地で知られるガダルカナル島からの生還者、井川貞能さん（94歳）の戦争体験を聞く会を開きました。井川さんがその戦争体験を語りだしたのは01年の8月からで、この日もアメリカ軍らによって補給路を断たれたガダルカナル島で、所属した11中隊約3万人のうち約2万人が亡くなり、うち1万5千人が餓死者だったこと、生存者もトカゲやカタツムリ、アリの巣などで飢えをしのいだことを語り、「二度と戦争をやってはいかん。後世に絶対あってはならない」と語りました。

**【宮城・仙台】** みやぎ憲法九条の会は12月3日、「あの戦争は何だったのか、太平洋戦争を学び直そう」をテーマに講演会を開き、約40人が参加しました。会では、安達宏昭・東北大学准教授が講演し、「アジア太平洋戦争は、中国への侵略戦争の最終的な帰結」であることを明らかにするとともに、補給を軽視した作戦の結果餓死率は60%にのぼることを明らかにしました。

仙台市在住の2人が戦争体験を報告。小野寺哲さん（86歳）はシベリア抑留体験や中国残留孤児について、林智徳さん（74歳）は仙台空襲について語りました。

## 震災後の教育を憲法の視点から

**【教育子育て九条の会】** 教育子育て九条の会は12月3日、東京・明治大学で、「見つめよう、歩み出そう3・11後の教育と憲法」をテーマに、第4回全国交流集会を開き、約190人が参加しました。

オープニング行事の後のシンポジウムでは、原発事故後の現状について福島県郡山市の2人の主婦の報告を受け、経済学者の暉峻淑子さん、教育学者の田中孝彦さんらの討論がおこなわれました。

リレートークには、教職員、学生、医療関係者ら11人が参加。教育の場に強まる競争と管理、ひろがる子どもの貧困などについて訴えました。

## マスコミのあり方を問う

**【マスコミ9条の会】** マスコミ9条の会の呼びかけでつくられた実行委員会の主催で、公開討論会「脱原発でひらく新しい日本」が12月3日、開かれました。第1部『フクシマ』克服の道筋を問う、第2部「脱原発と政治の役割・責任」、第3部「メディアの責任とジャーナリズムの課題」という3部構成で合計6時間に及ぶ長丁場の集会となりました。

とくに第2部で、民主党の川内博史さんと共産党の小池晃さんが「原発ゼロの一点で、場合によってはいっしょに」と応酬し合ったこと、第3部では「犯す前に犯すと言うものはいない」との田中聡防衛局長（当時）のオフレコ発言を公表した経緯について、松元剛・琉球新報政治部長が明らかにしたことが注目を集めました。